



みたけさん

第20号

令和8年9月1日発行

発行 三 嶽 神 社

編集 権禰宜 新山敏彦

ホームページ <https://mitakejinja.com>



令和7年例大祭での祝詞奏上



工沢祭同好会の子ども神輿

神輿を担ぐ意義について

三嶽神社宮司 新 山 敏 春

神輿は祭りのときに神さまの御霊（みたま）を奉安する乗り物・輿のことを言います。

輿とは、元々は貴人が用いた乗り物の総称で、中でも天皇の行幸に際して用いられた「鳳輦（ほうれん）」や「葱華輦（そうかれん）」が基となり、神さまを奉安する際にも用いられるようになったと言われています。

神輿を担ぐ大きな意義は、**神様を地域へお迎えし、町を巡っていただく**ことです。神輿は神様の乗り物とされ、祭りでは神様が神社から氏子地域へ出向く神事として渡御が行われます。

神輿を担ぐことには、**地域の無事や繁栄を祈る意味**があります。また歩行が困難で神社を詣でることが困難な方には、神輿の巡行に合わせて玄関先などから神さまを拝する機会にもなります。いずれにしても、神さまが地域を巡ることで、家々や町にご加護をいただくという考え方があります。

更には、担ぎ手や世話役、見守る人が一緒に関わることで、**神社と地域のつながり**を確かめる役割もあります。祭りは神事であると同時に、地域の一体感を生む場でもあります。

三嶽神社の例祭日には、毎年工沢祭同好会の代表が神事に参列し、お祓いを済ませた子ども神輿に御分霊を宿した神札が入れられ巡行されています。

昨今担ぎ手が減少し神輿の巡行に支障を生じる団体もあるようですが、古（いにしえ）より続く伝統を次世代へと継承されるようお願いしています。

三嶽神社の七五三詣り！

お子さまがこれまで無事に育ったことを氏神さまに感謝し、これからの健やかな成長を氏神さまである三嶽神社でお祈りしてみませんか？

七五三は日本古来の行事です。昔は子どもが健康に成長することが難しかったので、3歳（髪置（かみおき）の儀）、5歳（袴着（はかまぎ）の儀）、7歳（帯解（おびとき）の儀）のときにお祝いするようになったとされています。

祈願の時期は11月15日前後に行うのが一般的ですが、県内では寒さが厳しくなる前の、10月初旬から11月中旬を目途に行うことが多いようです。三嶽神社の氏子地域にお住まいのお子さまには、日々お守りいただいている神さまの前でご祈願されますようご案内申し上げます。

ご祈願のご予約は下記までお願いします。

お問合せ 三嶽神社社務所

TEL 090-8788-5530（三嶽神社権禰宜 新山敏彦）



お知らせ

9月12日は午前10時から当社例大祭の祭儀が行われますが、今年も花巻まつりと日程が重なることから、芸能行事は行われません。

謹んでお詫び申し上げますとともに、来年以降の開催について今後検討して参りますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。



此度、授与所に屋根を取り付けていただきました。これにより雨や雪の日でも屋根の下で朱印やお守りの授与をお待ち戴けるようになりました。

拝殿授与所の屋根取付

季節のご朱印

ご好評を戴いております「季節のご朱印」。9月は秋を代表する味覚の「栗」、10月は秋に桃色・白・赤などのはなを咲かせる「秋桜（コスモス）」です。

日本の文化や伝統行事、食べ物や風景をあしらった、季節が感じられるご朱印ですので、参拝の際には是非拝受をお申し出下さい。



9月



10月